

救命処置の重要性

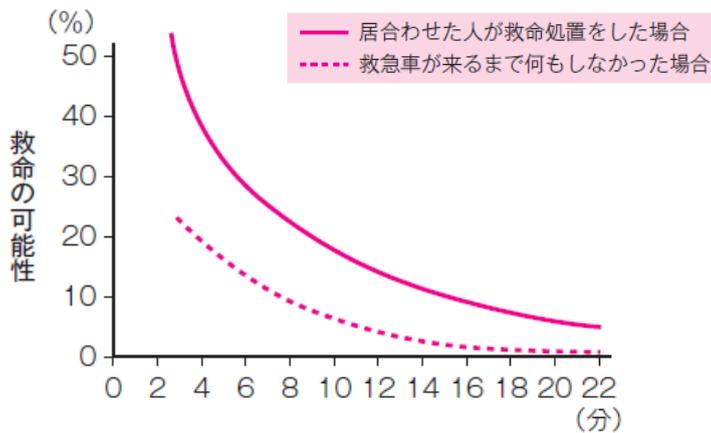
もしあなたの近くに、呼吸も心臓も止まってしまった人がいたら・・・
こんな時、あなたはどうしますか？

生命の危機に陥った傷病者を救命し、社会復帰させるために必要となる一連の行動と処置を「救命の連鎖」といいます。「救命の連鎖」を構成する四つの輪がすばやくつながると救命効果が高まります。

「救命の連鎖」における最初の三つの輪は、現場に居合わせた方によって行われることが期待されます。救急車が来るまで何もしないと、救命のチャンスは大きく遠ざかります。大切な命を助けるためには、現場に居合わせた方の行動がとても重要です。



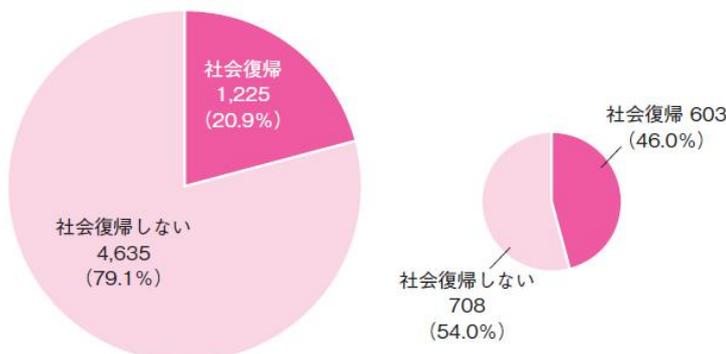
■ 応急手当の重要性



心臓が止まってから救急隊による電気ショックまでの時間 (心室細動例)

救急車は要請を受けてから現場に到着するまで全国平均で8～9分かかります。救命の可能性は時間とともに低下しますので、救急隊の到着まで、たとえ短時間でも救命処置をすることにより、救命の可能性は高くなります。

■ 除細動(電気ショック)の必要性



突然の心停止は、心臓が細かくふるえる「心室細動」によることが多く、この場合、心臓の動きを戻すには電気ショックによる「除細動」が必要となります。心停止から電気ショック実施までにかかる時間が、傷病者の生死を決定する重要な因子です。

救急隊が電気ショックを行った場合 (5,860例)

市民が電気ショックを行った場合 (1,311例)

電気ショックを救急隊が行った場合と市民が行った場合の1か月後社会復帰率 (総務省消防庁「救急・救助の現況」令和2年版より)

心肺蘇生法（CPR）の手順

★自分の安全と感染に注意して、駆け寄ります。

① 反応の確認



★呼びかけに対して、目を開けるなどの応答や目的のある仕草があれば「反応あり」。何もないまたは、引きつるような動き（痙攣）は「反応なし」と判断します。

★反応がない場合、判断に迷う場合、わからない場合心停止の可能性がります。

② 119番通報とAEDの手配



119番通報すると電話を通じて行うべきことを教えてくれます。

心肺蘇生法の自信がなくても通信指令員の指示に落ち着いて従ってください。

③ 普段どおりの呼吸があるか確認



電話のスピーカー機能を使用すると、指導を受けながら実施することができます。

★10秒以内で胸とお腹の動きを見る。

胸とお腹が普段どおり動いていなければ、呼吸と心臓が止まっていると判断。※判断に迷う場合、わからない場合も呼吸と心臓は止まっていると判断します。

④ 胸骨圧迫



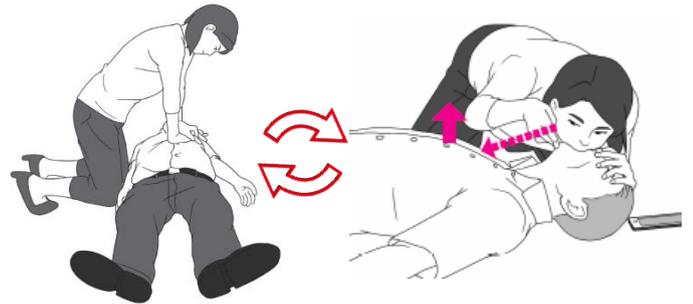
★胸骨圧迫を30回
硬い床の上で行ってください。

胸骨圧迫の要点

- ・強く(胸が約5cm沈むまで)
- ・速く(100~120回/分のテンポで)
- ・絶え間なく(中断を最小にする)

★出来るだけ早く胸骨圧迫を開始します。

⑤ 胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ

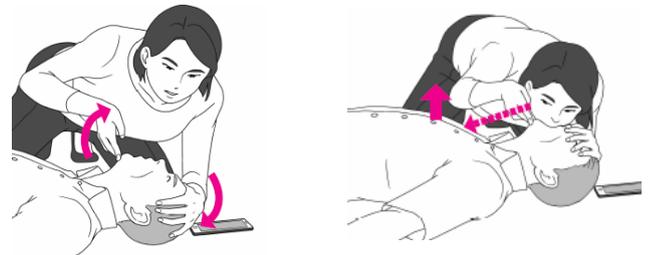


★胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを絶え間なく続ける。

※人工呼吸を実施しない場合は胸骨圧迫のみ実施

気道確保と人工呼吸

※訓練を受けており、行う技術と意思があれば実施



★2回繰り返します。(出来ても出来なくても2回まで。人工呼吸中は胸骨圧迫を中断しますが、その中断が10秒以上にならないようにします。)

口対口人工呼吸の要点

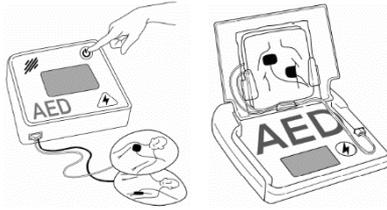
- ・胸が上がるの見えるまで
- ・約1秒間かけて吹き込む

AED到着後の手順

⑥ AEDの準備～電源ボタンON



★AEDを傷病者の頭の近くに置く



★到着したらすぐに電源ボタンON

・機種によっては、AEDのフタをあけると自動で電源が入るものもあります。
 ・音声の流れますので、指示に従ってください。
 ※ショックボタンを押さなくても自動的に電気が流れる機種(オートショックAED)もあります。

⑦ パッドを貼る



★倒れている人の衣服を取り除き胸をはだけます。AEDのケースに入っている電極パッドのイラストに従って1枚を胸の右上に、もう1枚を胸の左下の素肌 directly 貼り付けます。

・電極パッドを貼る間もできるだけ胸骨圧迫を続けます。
 ・パッドはアクセサリや下着の上に貼ってはいけません。肌にしっかり密着させます。

こんな場合は・・・



★胸が濡れている場合
 = 濡れた布やタオルで拭く。



★医療器具が植込まれている場合
 = 出っ張りを避けて貼り付ける。

⑧ AEDによる解析

・心電図を解析中です。体に触れないでください。のメッセージに従い、周囲の人が傷病者に触れないよう指示し確認します。

★パッドのコネクターをAED本体に差し込みます。

「心電図を解析中です。体に触れないでください。」との音声メッセージとともに、AEDが自動的に解析を始めます。



ショックが
必要です



ショックは
不要です



離れて

★周囲の人が倒れている人に触れていないことを確認して、ショックボタンを押します。



★電気ショックが必要でない場合は、すぐに胸骨圧迫を再開します。

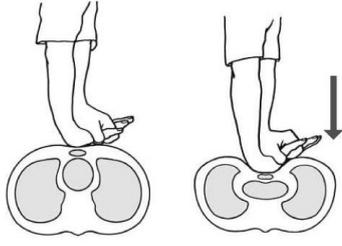
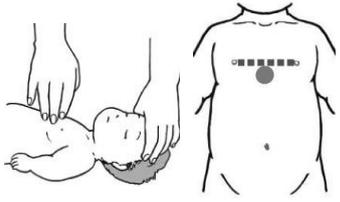
未就学児用パッドおよび小学生～大人用パッドの適応傷病者

	未就学児用パッド・モード*	小学生～大人用パッド
未就学児の傷病者	○ (推奨)	○ (可)
小学生や中学生以上の傷病者	× (不可)	○ (推奨)

★電気ショックの後は直ちに胸骨圧迫を再開します。AEDの指示に従い、約2分おきに心肺蘇生とAEDの手順を繰り返します。

大人と子どもの違い

☆心肺蘇生法（CPR）の違い

手技	成人 (15歳以上)	小児 (1歳以上 15歳未満)	乳児 (1歳未満)
胸骨圧迫の方法	<p>両手 片方の手のひらのつけ根部分をあて、もう一方の手を重ねる。</p> 	<p>両手または片手 片方の手のひらのつけ根部分をあて、もう一方の手を重ねる。 体格に応じて片手で行う。</p> 	<p>手の指2本</p> 
胸骨圧迫の深さ	胸が約5cm 沈むまでしっかり圧迫する。	胸の厚さの約1/3 沈むまでしっかり圧迫する。	

☆AEDの違い

手技	成人 (小学生～大人)	未就学児 (0歳から小学校に入るまで)
パッド	小学生～大人用パッドを用いる。 ※未就学児用パッドは使用しない。	未就学児用パッドを用いる。未就学児用パッドがない場合は、小学生～大人用パッドを代用する。 未就学児用切り替えモードがある場合は切り替える。

★救急車の適正利用を・・・

救急車は、「病院へすぐに搬送しなければならない場合」や、「どうしても病院へ搬送する手段のない場合」に活用していただきたいのですが、「緊急でない場合」で救急車を要請すると、1分1秒を争う生命の危険がある傷病者を待たせてしまう事態の発生を心配しています。

救急車を本当に必要とする人がすぐに利用できるよう、また、一人でも多くの生命が助かるよう、救急車の適正利用にご協力をお願いします。

☆ 救急医療案内 0575-23-3799



心肺蘇生法（CPR）の手順※新型コロナウイルス感染症流行期への対応

★自分の安全と感染に注意して、駆け寄ります。

① 反応の確認

※あまり顔を近づけないように



★自分がマスクを正しく着用していることを確認します。

★人数に余裕があれば、処置を行わない人は部屋の換気を行ったり、密集しないようにします。

★反応がない場合、判断に迷う場合、わからない場合心停止の可能性あります。

② 119番通報とAEDの手配



119番通報すると電話を通じて行うべきことを教えてくれます。

心肺蘇生法の自信がなくても通信指令員の指示に落ち着いて従ってください。

③ 普段どおりの呼吸があるか確認



電話のスピーカー機能を使用すると、指導を受けながら実施することができます。

★10秒以内で胸とお腹の動きを見る。

胸とお腹が普段どおり動いていなければ、呼吸と心臓が止まっていると判断。※判断に迷う場合、わからない場合も呼吸と心臓は止まっていると判断します。

④ 胸骨圧迫



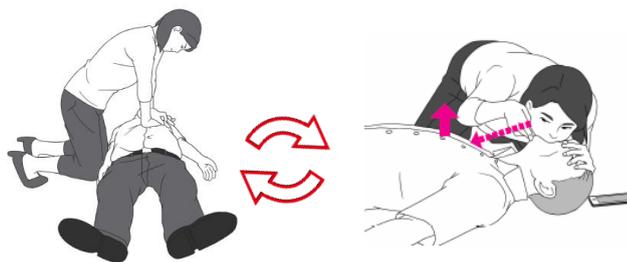
胸骨圧迫の要点

- ・強く(胸が約5cm沈むまで)
- ・速く(100~120回/分のテンポで)
- ・絶え間なく(中断を最小にする)

★傷病者がマスクを着用していれば、外さないでそのまま胸骨圧迫を開始します。マスクを着用していなければ、マスクやハンカチ等で傷病者の鼻と口を覆います。

胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ※

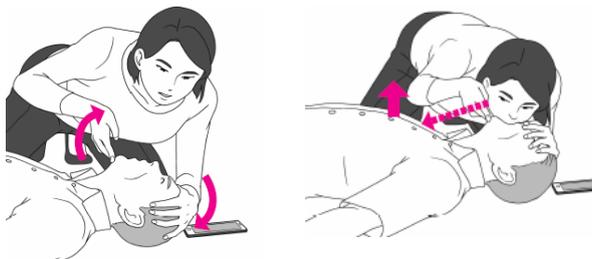
※成人には胸骨圧迫のみ実施



★成人には、行う技術と意思があっても胸骨圧迫だけを続けます。

気道確保と人工呼吸※

※小児に対しては、訓練を受けており、行う技術と意思があれば実施。その場合はお互いのマスクを外す。



★2回繰り返します。

口対口人工呼吸の要点

- ・胸が上がるの見えるまで
- ・約1秒間かけて吹き込む